

ジェンダー平等教育のなぜ

勝木 洋子

キーワード：ジェンダー平等教育 SDGs アンコンシャスバイアス GGGI LGBTs SOGI

はじめに

2007年に生まれた子供の半数以上が107歳まで生きるとリンダ・グタットンが「LIFE SHIFT100年時代の人生戦略」の中で書いている。平均寿命が延び続けて100歳を超える超長寿社会は誰も予測のできない事象が待っている。内閣府では2018年に人生100年時代を見据えた経済・社会システムを実現するための政策のグランドデザインに係る検討を行うため、「人生100年時代構想会議」¹を開催し、その後の会議では保育料無償化や、働き方改革が検討され、生涯ひとつの仕事続けるわけではなく、学び直しや再就労、働きながらパラレルに副業を持つ、ボランティアにも参加するなど提唱している。現役社会で90歳くらいまで働き、その後引退になるマルチなライフコースを国は示している。

Society5.0²になると、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（超スマート社会）になると位置付けられている。そこでは女性活躍が大きく進み、ビッグデータを処理し、AIの導きによって生きていくらしい。そのような生活は本当に実現するのか、誰もが豊かな人生をおくることができるようになるのだろうか。

先日、ショッキングな記録が更新された。世界経済フォーラム（WEF: World Economic Forum）ダボス会議のグローバルジェンダーギャップ（GGGI gender gap index）である。女性活躍推進法（2015年）では、その個性と能力を充分に発揮して活躍することがいっそう重要と謳われているが、2018年では110位/149カ国、2019年の結果は121/153カ国に甘んじたというニュースから見ても、女性がリーダーになる社会はまだまだ先のことでありと想像できる。職場での男女平等実現まであと257年かかるといったニュースも見たが、GDP（国内総生産）との相関から見ても世界と比較してその実態が明らかだと言われている。一般社会では固定的性別役割分担意識が依然として踏襲されている。しかし、人口減少社会では社会の活性化を推進するために、女性の力が必要とされ大きな期待がかかっている。

狩猟社会（Society1.0）をはじめりとしてみると、現代は情報社会（Society4.0）であり、次に訪れる新しい社会（Society5.0）では、AIとビッグデータにより、適切な解釈と対処法が検討できるようになるといわれている。そこにジェンダー平等の視点がなければ経済的な発展

や環境面や人の暮らしも含めた社会基盤を支えるには偏りが増大するのではないかと想像する。

SDGsの5番目「Gender 平等の実現」を当たり前を実現するために、教育の中でそれぞれに刷り込まれたジェンダーを剥ぎ取らなければならない。

学校文化の縛りがきついとジェンダーの偏りもきついで、教師の中にある「隠れたカリキュラム」をより学習し自分自身を解放する。このことから、学校文化や生徒への思い込みの現実を自分のこととして引き寄せて考えれば、より包摂的に「アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」、さらにそこから発生する「マイクロアグレッション（無意識的な差別）」から脱皮できるのではないだろうか。

SDGsは国連のミレニアム開発目標（MDGs 2000年）の継続として新たに課題を整理し2030年までに「持続可能な開発のためのアジェンダ」として採択された³。その5番目には「ジェンダー平等を実現しよう」と掲げているし、2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年でもある。

このオリンピック憲章⁴の定める権利および自由は「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」。経済的利益だけではなく、せめてG7の国並みに女性の地位が確立されたいと願っている。

1999年に国の男女共同参画社会基本法ができ、次々と県や市町も策定をしてきた。筆者の身近な体験として神戸市、尼崎市、小野市、相生市など兵庫県内市町の男女共同参画条例や計画（プラン）策定に関わってきた。また、多くの市町の男女共同参画委員会にも参画させていただいた。その過程で大きな学習をしたが、実際に男女共同参画に対する意識と態度のズレ、「男らしく、こうあらねばならない」といった方々や、生物的に性が違うのでその対応や役割が違って当たり前といわれる方々に出会った。そのジェンダーに縛られた方々の中で、ご自身の生きにくさや自身が発するアンコンシャスバイアスで他人を傷つけてしまわれた場面もみてきた。

男女共同参画社会の基本は人権教育と言われている。多様性が認められる社会ではLGBTsの子供達がないことにされていたり、カミングアウトができないような現実はない。SOGI (Sexual Orientation Gender Identity)⁵一人一人が自分らしく安心して生きていける社会を目指し、カリキュラムの多様性でもって「生き抜くことにベストを尽くす子供」を育てていく男女共生教育が必要であろう。

自分が好きで自分を大事にすることのできる子供は自尊感情が高く他人にも寛容である。それには子供を取り巻く環境としてのおとなのモデルが必要になる。働き方改革、自立と共生、創造的内発的モチベーションなどは、家庭教育、地域教育とともに連携しながら養われていく。

注

- 1 人生100年時代構想会議の開催について—首相官邸
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/jinsei100nen/pdf/konkyo.pdf>
- 2 Society 5.0 —ともに創造する未来— 日本経済団体連合会
<https://www.keidanren.or.jp/policy/society5.0.html>
- 3 「持続可能な開発目標」(SDGs)について 外務省
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/about_sdgs_summary.pdf
- 4 オリンピック憲章 公益(財)日本オリンピック委員会
<https://www.joc.or.jp/olympism/charter/>
- 5 性的思考と性自認 法務省人権擁護局
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/LGBT/index.html>